

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	アドバンス・ケア・プランニング ～「物語られるいのち」の取り組み～
演者名	後藤 あゆみ
所属	訪問看護ステーションみどり

【目的】

アドバンス・ケア・プランニングとは通称「ACP」と呼ばれている。私たち在宅チームでは、APCに基づいて、オリジナルで「物語られるいのち」と称した取り組みを行っている。訪問看護は、患者の自宅に伺いケアを行ってくる。その為、その人個人を知るためには、よい条件下で働いている。私たち医療スタッフや家族が、その人にとって最善の医療とケアを提供することで、その人がその人らしく最期を迎えられることができるよう取り組みを行った。その「物語られるいのち」の実践をここに報告する。

【方法】

- ①ACPシートの活用
- ②外出企画の実施
- ③在宅ブロック学術運動交流集会（症例報告や事例検討）でディスカッションを行う。
- ④デスカンファレンスを行う。

【結果】

- ①日々のかかわりで得た事柄をACPシートに記載していく。その方の生活歴、生き様、行く末が明確になり全体像がみえてくる。
- ②4月にお花見、12月にイルミネーションに出かけた。普段、外出できない方、来年はないだろうと思われる方を対象としている。個々の関わりとして、最期に故郷のお墓参りに行きたいという願いを叶えた。また、コンサート外出も実現した。職員一人一人の意識がアドバンス・ケア・プランニングの勉強会を通して、同じ方向を向いて取り組んでいることがわかる。
- ③多方面からの意見や考えを出し合い、今後のかかわりに生かすことができる。
- ④亡くなった患者のことを思い出すことは、その人個人を大切に思う私たちの姿勢につながっていく。また自分たちの気持ちの共有をし、医療者同士も支えあうことができる。

【考察】

当法人の在宅医が中心となり、アドバンス・ケア・プランニングのプロセスのもと「物語られるいのち」を発信している。最期は住み慣れた家や施設で自分らしく自然に迎える選択肢があることを提案し、地域全体で支えていく。そのため、この取り組みを当病院、関連施設だけでなく、地域全体に発展させていきたい。